

# 漁況予報 い わ し

## 第204号

【2017年11～12月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

### = 概況 =

#### 【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は9月は88トンで、前年(110トン)および平年※<sup>1</sup>(82トン)並でした。10月は2トン(速報値)で、前年(20トン)および平年※<sup>1</sup>(14トン)を大きく下回りました。

まき網は、東京湾側で漁獲がなく、相模湾側では餌イワシとして散発的に漁獲がありました。

魚体は、2017年生まれの被鱗体長※<sup>2</sup>(以下同)12～13cmの0歳魚が主体でしたが、9月中旬以降はウルメイワシに混じる程度となり、散発的な漁模様となりました。

#### 【カタクチイワシ】

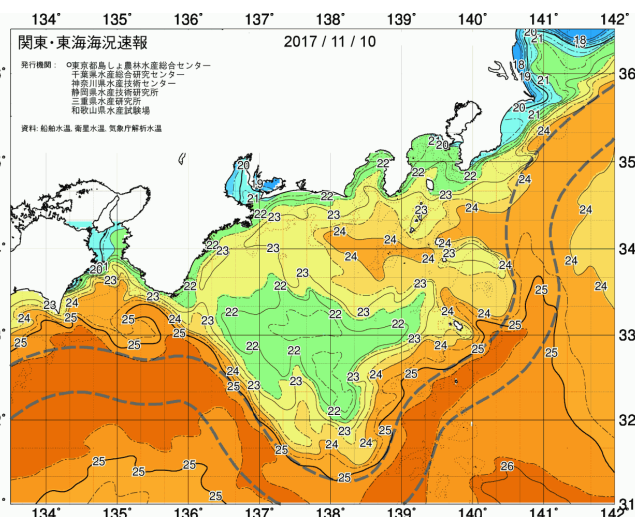
主要定置網における9月のカタクチイワシ総漁獲量は、0トンで、前年(114トン)および平年(32トン)を大きく下回りました。続く10月の漁獲量(速報値)も0トンで前年(17トン)および平年(4トン)を大きく下回りました。

まき網は、相模湾側で餌イワシとして9月に散発的な漁獲がありました。

カタクチイワシの資源量が減少傾向にある中で、いよいよ夏以降の漁獲が殆どなくなった1990年代を彷彿させる漁模様となってきました。

#### 【シラス】

8月は前年同期の3倍で平年並の漁獲水準だった相模湾のシラス漁ですが、9月に入ると上旬こそ好漁傾向でしたが、中旬以降は黒潮大蛇行に加え、湾全域でクシクラゲ類が大発生したことで漁場形成は散発的となりました。湾全体での漁獲量(標本船データより推定)は不漁の前年をやや上回ったものの平年を大きく下回りました(前年比1.3倍、平年比0.5倍)。10月に入っても黒潮およびクラゲの状況は変わらず、10月としては



1990 年以降としては、同じく黒潮が大蛇行型だった 2004 年に次ぐ 2 番目に少ない漁獲量となりました（前年比 0.3 倍、平年比 0.2 倍）。

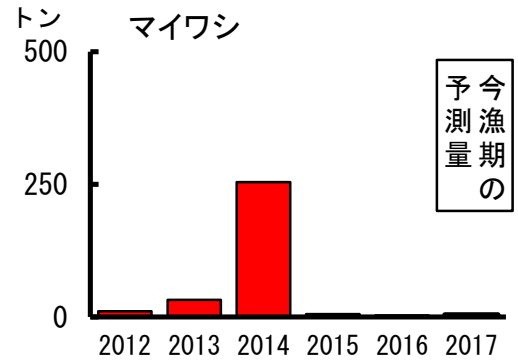
## = 予 報 =

過去 5 年の 11・12 月漁期の漁獲量と  
今漁期の予測量

### 【マイワシ】

今漁期は、2017 年生まれの小羽マイワシ（12～14cm）が漁獲の主体となるでしょう。過去 2 年、春季のマシラス漁獲量の割には、9 月以降のヒラゴ漁獲量が極めて少ない状況にあります。

今漁期の漁獲量は、低調であった前年並の約 4 トンと予測されます。

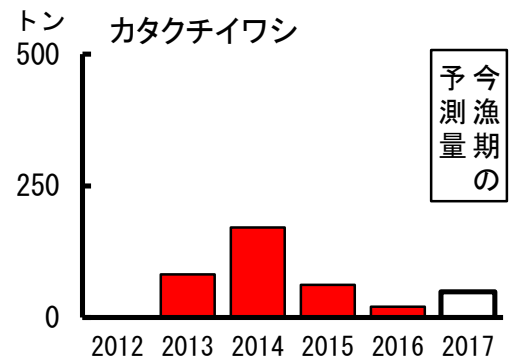


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

### 【カタクチイワシ】

今漁期は、2017 年生まれの未成魚（6～8 cm）が漁獲の主体となるでしょう。

この時期の小型成魚は、夏シラスが成長したものだと思われ、今漁期の漁獲量は、7、8 月のカタクチシラスの漁獲状況から、前年を上回る約 49 トンと予測されます。



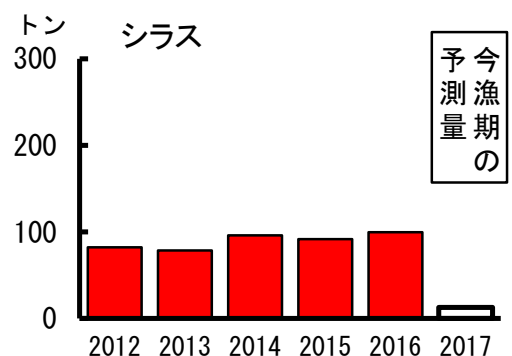
※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

### 【シラス】

今漁期は、カタクチシラス主体に 11 月はウルメシラスが、12 月にはマシラスが僅かに混獲されるでしょう。

今漁期は、グラフからもわかるようにここ数年 100 トン程度で推移していますが、概況で述べたように黒潮が大蛇行型で推移しており、シラス漁には不適な環境といえます。

今漁期は約 13 トンと予測されます。



神奈川県水産技術センター企画資源部  
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2313